

物流博物館 NEWS

小学校社会科見学特集号

号外 2000年9月15日発行

特集号発刊にあたって

平成10年に開館した物流博物館も、今年の8月で丸2年が経過しました。開館以来、当館ではさまざまな活動を行ってきましたが、とくに学校関係の団体見学には当初から力を入れて取り組んできました。そこで今回は、中でも見学数の最も多い小学生の団体見学を特集し、昨年度の見学がどのように行われたかご紹介してみたいと思います。

特集

小学校の社会科見学

1. 見学のようす

当館を訪れる小学生の団体見学は、そのほとんどが小学5年生の見学となっています。これは、5年の社会科で交通・運輸という、物流とかかわりの深い事項について学習するためです。昨年度の小学生の見学数は開館初年度に比べて倍増し、25校・1588名のみなさんが当館に来てくださいました。

見学の形態もさまざま、遠方の小学校からは社会科見学として来館していただく場合が多かったのですが、港区や近隣の区からは授業の一環としてクラス単位で見学に来ていただくケースがほとんどでした。昨年度は、1クラス24名の学校



見学のようす(「現代の物流」展示室にて)

から、最大145名の社会科見学まで、いろいろな学校の見学がありました。

見学していただく場合、当館の映像展示室で物流に関するオリジナルの映像作品を2本見た後、学芸員が各展示室を案内するというのが一般的なパターンでした。

2. ワークシートの利用

見学に際しては、多くの小学校が当館で作成したワークシートを利用してくださいました。ワークシートの質問に答えることで、展示の内容をよりよく理解することができます。ワークシートは当館の2つの展示室(「現代の物流」展示室と「物流の歴史」展示室)ごとに作られています。見学時間や授業の進度などの状況に応じて、先生方が内容を取捨選択して利用される場合もありました。

3. しらべ学習

大勢の見学の場合はワークシートの内容に沿って見学を進めるのがやはり理解しやすいようでしたが、これに加えて見学前に児童の皆さんが物流に関するさまざまな疑問を出しあつて、それらの疑問を当館で解決する「しらべ学習」を行った学校も数校ありました。「しらべ学習」を行う場合には、事前に児童の皆さんの疑問を物流博物館に送ってもらい、一人一人の疑問に対して「ヒント・カード」を作成しました。当日は展示を見た後、この「ヒント・カード」を手がかりに館内の展示や図書、ビデオ、インターネットなどを利用して、疑問点の解決を図ってもらいました。みんな真剣にしらべ学習に取り組んでいました。

これらの学校では、こうした学習の成果を児童のみなさんが下の写真のようなすばらしい新聞にまとめて館に送ってくださるなど、見学を通じたやりとりを行うことができました。



児童のみなさんが作った新聞の一部

4. 見学校にアンケートを実施

見学後、各学校にご協力をお願いしたアンケートがあります。見学の際の時間配分や説明のわかりやすさ、ワークシート、上映した映像作品、展示内容などについて先生方のご感想をお聞きしたものです。先生方には、お忙しいところアンケートにご協力いただき、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

・アンケート結果より～見学時間

以下、アンケートの内容を簡単にご紹介したいと思います。
まず、見学時間についてですが、1時間程度の見学の場合、もっと時間をかけて見せてあげたかったというご意見が多く寄せられました。当館は小規模の博物館ですが、映像作品を見たり、学芸員の説明を聞いたりするほかに、地下1階にある「現代の物流」展示室で物流クイズや物流ゲームなどを体験しようとする、やはりもう少し時間があつた方がゆっくりと見学ができるようです。1時間半以上、2時間程度あれば、さらべ学習なども含めて、充実した内容の見学ができると思います。

・ワークシート

ワークシートについては、概ねよいご評価をいただきましたが、「ちょっとむずかしいところもあった」というご意見もありました。また、見学時間が充分でないと、解答に追われてしまったケースもあったようでした。小学生向きなら、もうすこしかわいらしい感じにしてもよいのではとのご提案もあり、今年度版の新しいワークシートでは、こうしたご意見を参考に改良を図ってみました。

・展示内容／展示解説

展示内容についても、子どもたちにとってわかりにくい物流についてわかりやすい工夫がしてあるとのご意見をいただくなど、よいご評価をいただきました。展示自体は少しむずかしいところもあるが、展示解説があつたのでよく理解できた等のご意見も多く、学芸員による展示解説はこうした団体見学を行う上でやはり重要なようです。同時に、「歴史の展示は5年生にはちょっとむずかしいので、江戸時代のことなどは触れる程度でよいのでは」とのご意見もあり、今後の課題にしたいと思っています。フリータイムを多くとって、情報機器などを使ってもっと自由に見学させたかったとのご意見も複数ありました。

・人気の展示

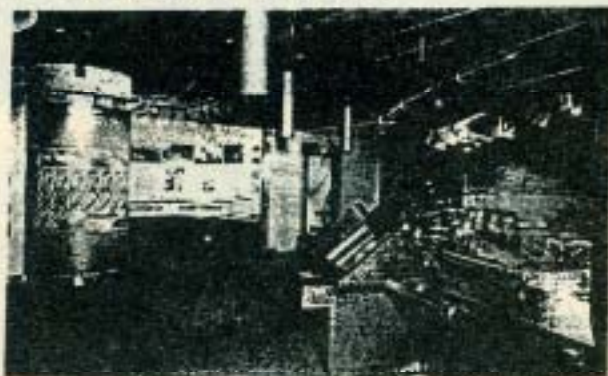
館内の展示の中でよかったものは？との質問でもっとも高い得点を得た展示は、「現代の物流」展示室にある陸海空のターミナルを表現した大型ジオラマ模型でした。これは空港・港・トラックターミナル・鉄道貨物ターミナルを150分の1の模型にしたものです。2位は同展示室の「みちかな物流・宅配便」のコーナー、3位と4位にも同じ展示室の映像ブースと物流ゲームが同点で入りました。



人気の「陸海空の物流ターミナル」大型ジオラマ模型
陸海空のターミナルを鳥の視点で見ることが出来ます。
物流は24時間動いているということで、模型も夜になり朝がやってきます。夜景はなかなかキレイ。

見学後、たくさんの学校から、児童のみなさんの手になる素敵なお礼状をいただきました。トラックの形のカードに一人一人お礼の言葉を書いてくださったり、一人一人パソコンでカードを作ってくくださった学校もありました。また、見学後に学校の学芸会に招いていただいたことなどもありました。皆さんどうもありがとうございました。

今年の見学情報



「現代の物流」展示室

1. 新しいワークシートを作りました

昨年のワークシートを実際に使っていた先生方や、博物館と学校との連携を研究している先生方のご意見を取り入れて、2000年度版ワークシートを作りました。

今回はイラストや写真をのせてより楽しく利用できるようにしてみました。問題にも工夫を重ねました。その問題に答えようとする中で、資料の見どころ・面白いところも気付いてほしいなどというわたしたちの願いをこめたつもりです。ワークシートは、授業の進度や見学時間などによって、1部分だけを使うことも可能です。

ワークシートは全部で3種類あります。

「物流の歴史」展示室のワークシートでは、飛脚の看板や明治時代に活躍した蒸気船通運丸、江戸時代の「明荷」と呼ばれる運搬具などの写真を掲載しています。飛脚の看板は「くずし字」で書かれた文字を読むことがワークシートの問題になっていますので、ぜひぜひ本物を見て挑戦してみてください。

「現代の物流」展示室のワークシートでは、現代物流ターミナルのジオラマ模型をもっとくわしく見てもらうための問題を新しく作りました。こうしたターミナルは一般にはなかなか見学することができません。また、見ることができてもあまりに広大なため、なにがなんだかさっぱり・・・？。そこで物流博物館ではこうした物流ターミナルの役割を知ってもらうために模型を展示しています。しかし、ただぼーっと見るのではなく(ぼーっと見ていると夕焼けから夜になるのでそれはそれで楽しいのですが)、ワークシートの答え探しをしているうちに、いろいろなことに気づくことができる内容にしてみました。

飛行機に貨物を積み込む所、ガントリークレーンがコンテナを船からおろす所、鉄道が運んでいるコンテナの種類、トラックターミナルの内部の様子など、注意して目を向けてみてく

ださい。船とトラックの大きさがあまりにも違うことから、船が大量輸送にふさわしいことが実感できるなど、大きなことから細かいところまでいろいろな「発見」ができると思います。

また、今年度は「みちかな物流・宅配便」のコーナーのワークシートも新しく作ってみました。知っているようでよく知らない宅配便を理解する上で、おおいに役立つと思います。

2. 宅配便の人にインタビューできるかも

実際に宅配便業界で働いている人にインタビューしたいという要望が一昨年から寄せられています。そこで日通のペリカン便の人にお願ひしてみました。お中元お歳暮のシーズンでなければ、物流博物館見学の際に、宅配便の仕事をしている人に来てもらって、いろいろと質問攻めにする・・・なんてことができるようになりそうです。 ※1ヶ月前に要予約のこと。

3. 米俵をかついでみよう！

実物大の米俵が展示室にお目見えしました。埼玉県川里村にお住まいの方に特別にお願ひして、物流博物館のために作っていただいたものです。

製作していただいたのは、昔ながらの二重俵と改良型の複式俵の2種類です。米俵のしくみはどうなってるの？という疑問に答えるために、お米を詰める前の俵も展示しています。2分の1のミニチュアサイズもあります。実際の米俵は65kgくらいあったそうですが、この米俵は10kgにしていますので、ちょっと腕に自身のある方は学芸員に担ぎ方を教えてもらって実際にかついでみてはいかがでしょう？また、自由に触ることもできますので、わらのとげとげした感触なども味わって昔の人の苦勞をしのんでみては？



「物流の歴史」展示室

4. 人気コーナー みちかな物流・宅配便

物流のしごとのなかで一番身近なものといえば宅配便ではないでしょうか。物流博物館では昨年の10月から宅配便を紹介するコーナー展示を設けています。小学生の社会科見学で来られた先生方へのアンケートでも、第2位に入った展示です。

このコーナーでは、意外に知られていない宅配便の歴史をパネルで紹介したり、宅配便の集配ドライバーが常に持ち歩いている七つ道具を展示しています。制服や靴もありますが、これらはみんな手にとって触ったり、着たり！？できるようにし

ています。最近、インターネットが発達して、買物などもインターネットでできますが、品物を届けるのは宅配便の仕事です。インターネットが普及してますます便利な世の中になっても、モノを運ぶという仕事はなくなるならない、むしろますます重要な仕事になっていくことでしょう。



「現代の物流」展示室の身近な物流・宅配便のコーナー

展示紹介

車石



江戸時代の石のレール。この上を荷車がごろごろ通っていたと気付いた時の驚きはちょっとしたもの。

ビデオブース



くらしと産業を支える物流のようすについて、計5本のビデオ映像で紹介しています。いずれも5、6分の作品で、宅配便や企業物流、生鮮品の輸送、パソコンができるまで、バイク便や引越、トランクルーム等について紹介しています。

カーゴ君

物流ゲーム・クイズの案内役。クイズでは答えを悩んでいると催促する。ゲームでは物流のしくみについていろいろと教えてくれる。でも、実は小学生のロボット。



近況報告

特別展

「写真と映像でたどる

物流の20世紀」開催

3月24日～5月21日まで、特別展を開催しました。今世紀初頭の物流の世界では、蒸気機関車・帆船・荷馬車に大八車が行き交い、人力荷役があたりまえでした。この展示では100年間に変化を遂げた物流の姿を、未公開だった約200点の館蔵写真と、計18本の記録映画により紹介しました。

物流博物館映画上映会

「物流の視点—はこぶ姿から時代を見る」開催中

7月～10月まで毎月2回映画会を開催しています。昭和20年代～50年代までははこぶ姿を捉えた映像作品に写し込まれている時代状況を探ってみようという催しです。シリーズ化された映画会はこれで3度目になりますが、常連さんもできています。10月の上映作品は戦後の港湾荷役の歴史を追った「港湾荷役37年」と、船上生活の一家の生活記録をドラマ化した「希望の船」です(10月13日・15日いずれも3時から)。

夏休み体験講座

「お宝を包んでみよう」

「ひっこし大作戦」

「段ボール工作教室」を開催

今年の夏休みには、物流の仕事を紹介する3つの体験講座、「お宝を包んでみよう」(8月8日・23日)、「ひっこし大作戦」(8月25日)、「段ボール工作教室」(8月27日・29日)を開催しました。

「お宝…」は日本通運の美術品輸送の専門家に講師を依頼し、実際に陶器の壺などを特殊な和紙と綿ふとんを使って包んでみようという講座です。見本として包んで見せてくれた先生の手つきがあまりにも鮮やかで、「これなら簡単そう」と皆さん思ったようですが、見るのとやってみるとでは大違い。皆さんかなり悪戦苦闘していたようです。

「ひっこし…」ではひっこし博士がやってきて、ひっこし専用車の荷台と運転席に乗せてくれたり、ひっこし新兵器を見せてもらったり、実際にちゃわんや本を段ボール箱に詰めてみたり、皆さん楽しくひっこしを「体験」していました。

「工作教室」では、物流にとってはおなじみの段ボールを使って運ぶ車を作ってみようということで、年齢別に宅配便の集配車やトレーラーなどに挑戦してもらいました。宅配便の集

配車には色をつけてオリジナルの車に仕上げましたが、宅配便の会社もびっくり！なデザインが続々と登場していました。



「段ボール工作教室」にて、宅配便の集配車を作成中

物流博物館のご案内

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15
Tel.03-3280-1616 Fax03-3280-4385
<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日

(但し月曜日が祝日・振替休日の場合は、その翌日)
毎月第4火曜日、祝日の翌日(但し土日を除く)
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 小中学生:100円 高校生以上200円

(団体20名以上半額)

※学校関係の団体は入館料が免除になります。

編集後記

■物流博物館NEWS特集号はいかがでしたでしょうか。これからも楽しい紙面作りを心がけて行きたいと思っておりますので皆様どうぞよろしくお願ひします。■1階エントランスの壁面にはアンモナイトの化石があります。アンモナイトではない、植物のような虫のような化石もあります。化石に詳しい方、名前を教えてください。誰も化石には気がつかないみたいけど。(K)■暑い夏もおわり、いよいよ2学期。物流博物館への団体見学や問い合わせが増えはじめる時期です。今年も、楽しい学習のお手伝いのできればいいなと思っています。(T)